

調査対象事業の概要／施設の概要

施設名称：大野市文化会館
建設年：昭和40年（昭和41年6月開館）
構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート3階建
面積：敷地面積5981.97㎡、延べ床面積3161.03㎡
（1階1951.83㎡、2階1022.24㎡、3階186.96㎡）
ホール客席数：客席627席、障害者用6席、立ち見席93席
土地区分：市有地 駐車台数：90台
その他施設：舞台、研修室1、楽屋2、会議室2、応接室1、レセプション会場1、控室2

検討経緯等

・平成25年度 老朽化する文化会館の活用等について、市民や文化関係団体等に対しアンケートを実施。
・平成26年度 平成26年10月に「大野市文化会館在り方検討委員会」を設置し、文化会館の整備に関する方向性の検討を実施。
・平成28年度 大野市文化会館整備基本構想策定委員会を設置し、文化会館基本構想の策定に取り組み、その後、平成29年度から大野市文化会館基本計画の策定に着手し、PFI導入可能性調査を実施し、文化会館整備の今後の取り組みの方向性を検討する。

事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

本施設は、昭和41年に竣工し建築後50年以上となり、躯体だけでなく付属機器等の経年劣化が進み、さらに耐震性の問題や駐車場不足が指摘されている。

この文化会館を整備し、新たな魅力ある文化芸術の創造と発信の拠点としていくためには、近隣市町にある類似施設との差別化を図り、市外からも利用されるような機能を兼ね備えた施設整備などに取り組む必要がある。一方で、市の財政収入が減少しており、出来る限り経費を抑制した整備の取り組みも検討していかねばならない。

そのために、施設整備等の事業手法として、民間事業者の創意やノウハウを取り入れ、効率的、効果的なサービスの提供が期待できるPFI方式などの民間活力の活用について、導入可能性を検討し、文化会館の利便性向上や文化会館を中心としたまちなかの賑わいを創出していきたい。

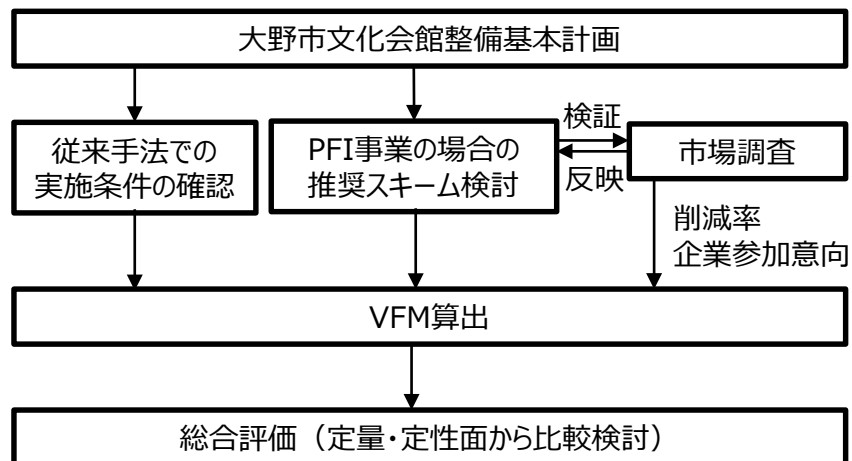
また、市外の文化施設の敷地面積と比較して少ない、限られた立地条件において、現文化会館に備わっている施設機能以上を満たし、さらに駐車場などを含めた施設構成を検討しなければならない中において、PFI方式を導入した場合に民間事業者からの応募の意向があるかどうかについて調査していきたい。

【検討項目】

PFI導入可能性の検討

- ①PFI導入範囲の検討、②事業方式の整理、③VFMの算出、④リスク分担の検討、⑤PFI事業スキームのまとめ、⑥民間事業者の算入可能性の検討、⑦PFI導入に向けての課題、⑧スケジュールの検討、⑨事業方針骨子の作成

調査の流れ／調査内容



事業化検討

- ①検討した事業手法
事業方式…PFI手法 (BTO方式)
事業形態…サービス購入型／ジョイント・ベンチャー型
事業期間…設計・建設期間 + 15年
事業範囲…新文化会館の設計・建設・維持管理・運営、既存施設の解体・撤去、新駅東公園の整備・維持管理
- ②定量評価 (VFM等の財政効果の算出)
VFM…2.4%
VFMが得られることが確認され、市の財政負担を軽減できる可能性が示された。
- ③その他 (定性評価等)
民間事業者の創意工夫を発揮させる余地を与えることにより、性能の向上や効果的な施設運営が期待される。
- ④検討結果
PFI方式を導入する意義は十分にあるものと考えられる。

今後の進め方

導入可能性調査の結果を踏まえ、庁内で組織するPFI検討委員会を開催し、調査結果の評価を行う。
検討委員会の評価を基に、教育委員会において導入の可否を決定する。

想定される課題

- 財政上の課題：市の財政計画と整合のとれた資金調達・支払計画の検討
・長期支払計画の検討 ・現実的な資金調達計画の検討
- 事業性の課題：民間事業者の参入可能性の向上策の検討
・適切な維持管理・運営費の確保 ・サービス購入型の対象範囲
・物価変動への対応
- 計画上の課題：適切な事業スケジュール・プロセスの設定
・事業者選定プロセスにおけるスケジュール設定
・市民等の意見の反映可能な要求水準書作成プロセスの検討